



永久津地区の地域活性化に取り組む チキンナンゴーが実りの秋を体感

吉本興業株式会社所属の宮崎県住みます芸人、チキンナンゴーの2人が10月17日、岡原地区（北西方）の水田で稲刈りを行いました。これは同社が推進する、地域との連携による活性化プロジェクトの一環で行われたもの。永久津いきいき協議会の協力を得て、6月の田植えから携わり、収穫の日を迎えました。作業に汗を流した2人は「稲刈り自体、小学生の時以来かも」と回顧。「やっと「自分たちのお米」ができたと実感が湧いた」と喜びを語りました。収穫された米は今後、市のふるさと納税の返礼品などに活用される予定です。



戦後 80 年、宮古島市から感謝のバトン 「学童疎開」 移動平和展を開催

11月7日から9日、中央公民館で戦時中に宮古島から疎開した学童に焦点を当てた「移動平和展」が開催されました。戦後80年を迎え、当時の受け入れへの感謝を伝えたいとする宮古島市の呼びかけで実現したもの。会場には体験者の証言に基づく写真やパネル約150点が展示され、戦時下の島の暮らしの変化や、小林市での集団生活における寒さや飢え、喜びなどの様子が紹介されました。今回展示されたパネルは宮古島市から市に寄贈され、同市の嘉数登市長は「教訓を後世に伝え、未来の平和へつなげたい」と期待を寄せました。



こばやし駅伝競走大会で上位を目指す 須木小校区の選手が練習に励む

12月7日に開催される「こばやし駅伝競走大会」に向け、須木地区では小・中学生と住民ら約20人が10月24日から合同練習会に励んでいます。選手の走力向上と大会での上位入賞を目指し12月5日まで同校区が取り組んでいるもの。練習では須木小の多良久校長が、フォームを意識した走り方やタイム走などを指導。参加した掛江晃生さん（須木小6年）は「練習はきついけど、成長できている。大会も頑張りたい」古澤智主将は「子どもたちと交流できるのもありがたい。大会では躍進賞を目指す」と意気込んでいました。

